

研修会報告

2022年 7月 11日

文責：加賀 淑子

研修会テーマ「千里の道も一歩から～血算・血液像編～」

開催日時 2022年 7月 2日（土） 14：00～16：00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 開催

司会 千葉 勇希/大久保 礼由

生涯教育点数 20点

参加者 会員参加者 44名(実務員・講師含む) 入会申請中会員 0名 非会員 1名

賛助会員 0名 学生 0名

合計 45名

講演1「血算機器から出るサインに気付ける検査技師になろう」

東北大学病院 診療技術部 検査部 佐藤 亜耶技師

講演2「検査データと形態から血液疾患に気付く～末梢血編～」

順天堂大学医学部附属浦安病院 臨床検査医学科 榎 亮介技師

16：00 終了

内容

今回の研修会は「千里の道も一歩から～血算・血液像編～」をテーマに開催した。

講演1では、ヒストグラム(粒度分布)・スキャッタグラム・アクションメッセージ等の血算機器から得られる情報をどのように結果報告に活かすかという内容でお話し頂いた。フィブリン析出症例や EDTA 偽性血小板減少症例のヒストグラム(粒度分布)・スキャッタグラムの提示があり、血液検査担当になってから日が浅い技師がどこに着眼すべきか学べる内容であった。宮城県内で使用されている血算機器のシェア 70%以上をシスメックスが占めているが、機器更新の参考等になるため他メーカー機器での同様の講演を望む声もあった。今後の企画に反映させたい。

講演2では観察された形態異常は同様だが検査データは異なる症例を提示し、一つ一つ丁寧に解説して頂いた。同じ形態であっても症例により意味が変わることがあり、追加検査の方向性が異なることを分かりやすくお話し頂いた。急性前骨髄性白血病症例を例に臨床検査技師の言葉が患者の今後を変えることもあり、知識・経験を継続的に習得し、また医師との関係性を構築していくことが大変重要であることをお話し頂いた。

参加者は、最後まで熱心に聴講していた。今後も宮城県臨床検査技師会員が日常業務で活かせる内容の研修会を開催し、勉強する場を提供していきたい。